

				学校整理番号		28	
				学 校 名		青森県立三戸高等学校	
				全日制の課程		校舎	
(1)学校教育目標		知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成 ア 正しい判断のもとに主体的に行動する。 イ 利己心を抑制し、他人の立場を考えて行動する ウ 調和のとれた人格の形成と豊かな教養を身に付ける エ 健康で安全な生活を送る態度を身に付ける オ 感謝する心、美しさを感じる心を培う					
(2)現状と課題		本校の多くの生徒は純朴で素直である。しかし、学力的には多様な生徒が入学しており、様々な支援を必要とする生徒も増加傾向にあることから、生徒に自己肯定感や自己有用感を持たせるような指導が必要である。					
(3)重点目標		1 学力の向上(確かな学力)					
		2 生徒指導の充実(豊かな心)					
		3 進路指導の充実(生徒の夢実現)					
		4 開かれた学校づくり(チーム三高)					
(4)結果の公表		学校ホームページで結果を公開している。保護者にはアンケート集計結果と記述欄の回答を文書で配布している。					

自 己 評 価					学校関係者評価		(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	学力の向上 (確かな学力)	(1)選択科目やコース制での授業を最大限に活用し、学習意欲を高めることで学習習慣の確立に努め、一人ひとりの学習成果に繋げる。(基礎学力の定着・志望に応じた学び) (2)ICTの活用やアクティブラーニング、A L T等、学習スタイルに変化をもたせ、個別最適な学びの実現を目指す。 (3)総合的な探究の時間において、SDG s と持続可能なまちづくりをテーマに教科での学び等を生かし、学年の枠を超えた協働や体験を豊富に取り入れた探究活動を展開する。(キャリア教育との関連)	(1)コース別、選択科目別、個別指導等を実施し5 0分授業×7時間・6時間併用とし教育課程を変更することになった。 (2)ICT機器を活用できる環境作りを行った結果、タブレット端末を利用した授業を展開できるようになった。また、ICT等の校内研修等を実施し、授業の改善・指導力の向上を図った。 (3)SDGsをテーマに持続可能なまちづくり等の課題について考え、キャリア教育の内容を含んだ全体計画・年間計画を立て実施した。主体的に問題解決に向けて取り組む力や、協働する力を高めることができた。	A	昔の三戸高校のようになってきたという声もある。地域学習を通して「きんか餅」の研究や発表などがありその成果が出ていると感じている。総合的な探究の時間の活用について、持続可能なまちづくりをテーマにした内容を来年度も継続していただきたい。	(1)教員数の減少に伴い従来の教育課程の維持が危惧されるが、生徒の学習成果を図るための方策を考えたい。 (2)GIGAスクール構想に伴うICTを活用した授業展開についても、今後検討しなければならない。 (3)予算の面で不安がある。次年度以降、若干の計画変更が必要となるかも知れないが、総合的な探究の時間について、引き続き持続可能なまちづくりをテーマにして、継続的に地域社会の人財を活用していきたい。	
2	生徒指導の充実 (豊かな心)	(1)心身の不調や学校生活への不安を抱える生徒、生活習慣が乱れている生徒などと定期的に面談し、状況の改善を支援する。 (2)委員会、生徒会行事への積極的な参加を促し、生徒一人一人に役割を与えるとともに、他者との協働や自ら考えて行動できるよう指導する。 (3)携帯電話やSNSによるトラブルの未然防止のため、情報モラル教室を実施するとともに、ルールを明確にする。	(1)心身の不調・不安等について、担任、養護教諭による健康相談活動が行われた。アセスの実施により集団での生徒の様子や学校以外の問題の発見の手立てとなった。 (2)委員会、生徒会行事について、生徒数が少ないこともあるが、生徒が協力して行っている様子がうかがえた。 (3)情報モラル教室は実施したが、SNSに関係するトラブルが発生した。	B	生徒のSNSトラブルがあったのは残念であるが、高校総合文化祭の結果などをはじめ、多くの先生方が生徒に寄り添って指導しているお陰である。次年度以降もお願いしたい。	(1)生徒が相談しやすい環境づくりをする。普段から自分の行動を自制したり振り返るなどして、自己や他者の尊厳を守ることが必要であることを指導し、いじめのない学校づくりを目指す。 (2)生徒会活動や学校行事について、生徒がより主体的に取り組むことができるよう、記録や自己評価の仕方について検討する。。 (3)情報モラルについて、トラブルを起こさない・巻き込まれない指導を充実させる。	
3	進路指導の充実 (生徒の夢実現)	(1)進路志望の早期確定に取り組むため、各学年の個人面談と三者面談の計画・実施を支援するとともに、進路情報の提供を行う。そのために進路指導部主任は、3年生全員と年度当初に、2学年全員と修学旅行後にそれぞれ個人面接を行う。 (2)大学と短大を合わせた進学率の向上のため情報交換を密にして、特に文理探究コースでは授業と講習を通し実力の養成を図りつつ、自ら学習を進めていく態度を身につけさせる。 (3)就職希望者に対し外部講師を利用して刺激を与え、社会に出て行く準備を進めながら自らの将来像を確立させる。 (4)就職または進学の試験に関わる3学年生徒への小論文・面接等の指導は、全職員が協力し分担して行う。	(1)3年生は担任が三者面談等を通じて進路志望の早期確定に向けて努力をし、進路部も個人面談や情報提供などを行った。生徒の希望を優先して企業を選んだため、苦戦する生徒もいたが、希望通りの企業に内定をいただくことができた。 (2)授業と講習を通して実力の養成を図り、希望の大学や短大への進学を果たした。そのための指導もあって、進学希望者で徐々に自学の習慣が身につけてきた者もあり、これを広げていきたい。 (3)就職希望者は外部講師による就職ガイダンスがよい刺激となり、面接指導などで自らの将来を見据えて努力する生徒が多かった。卒業後のミスマッチを防ぐためにも、会社訪問を実施して企業からの意見をうかがい指導に生かした。 (4)小論文・面接等の指導は、就職・進学とも全教員の協力をいただいてきめ細かに実施された。	B	進路指導面では、大学のオープンキャンパスや会社見学等どんどん出かける指導をし、進路達成のための体制を作って欲しい。 ブラスティーの活用について今年度は少人数で効果が少なかったかも知れないが、来年度に向けて生徒のために役立つための方策を検討し、指導に役立てていただきたい。	(1)面談によって早期に目標を設定させ、生徒の話聞きながら意思を確認して励ましていくことは有効な指導なので、今後も継続していく。 (2)今年度は進学率がやや低下するなど学年による特徴があるため、長期の視点に立って自学によって実力を伸ばし、多くの生徒が上級学校等を目指す状況を作っていく。 (3)就職希望者に就職ガイダンスの指導で大きな刺激を与え、生徒の会社訪問の指導を利用してミスマッチを防ぐ指導を強める。 (4)全教員による小論文や面接指導を早期から計画し、指導のために先生方に対する研修にも取り組んでいく。	
4	開かれた学校づくり (チーム三高)	(1)SDG s の1つである持続可能なまちづくりを目指し、課題を通して社会の形成に主体的に参画しようとする意欲や態度を育む。(地域との連携) (2)公開授業、中学生体験入学等を実施し、各中学校への説明会にも積極的に参加するなど、本校の情報を発信する。 (3)地域との連携による地域理解と学校魅力化の推進	(1)町役場等、関係機関と連携しながら、地域の課題に目を向けさせ、地域理解を深めさせる探究活動を取り入れた。 (2)インフルエンザ等の感染防止・熱中症対策をしながら、体験入学を実施した。中学校での学校説明会に出向くだけでなく、個別の学校説明会(オープンスクール)も積極的に受け入れ、丁寧かつ誠実に中学生や保護者に説明することで、学校理解を促し、主体的な進路選択につなげてもらえるようにしている。 (3)三戸小学校寺子屋や田子町にんべこまつりなどの町内外のボランティアに参加させ地域理解と交流を図ることができた。また、地域コーディネーターとともに全国募集を行い、学校説明会などを実施し学校魅力化の推進を行った。	A	学校案内(パンフレット)の活用、学校PRについて、従来の方法の他、町内外でのパンフレットの設置などを行っている。今後も続けていただきたい。 生徒たちが町内外の地域ボランティアに参加している。三戸町内や商工会などの反応もよいと聞いている。今後も様々な面で地域との交流をお願いしたい。	(1)人口減少対策プロジェクトなどを取り上げており、町役場や地域の各種団体などのステークホルダーとの対話を重視しながら、地域との連携に取り組む。 (2)地域活動やボランティア活動などの体験活動を通し、生徒が自発的・主体的に参加ができるよう促していく。体験入学では、本校生徒が主体となった運営が好評であったため、次年度も継続したい。中学校訪問などを行うとともに、体験入学など様々な機会をとおして、本校のPRに取り組む。 (3)学校活性化会議などの視点や意見を参考に、今後は来年度発足される学校運営協議会で、学校の活性化や魅力の向上を図る。	

(11) 総括	少人数指導の利点を生かし、生徒一人ひとりにきめ細やかな教育が実践できている。また、地元三戸町・田子町・南部町を中心として、地域との連携を大切にし、できるだけ地域の要望に応え、地域のボランティア活動をはじめ生徒に各種活動を体験させることができた。「総合的な探究の時間」では、SDG s をテーマとした探究活動を通して地域理解にも繋げ、地域に必要な人財育成を行っている。またクリエイティ部も地域課題をテーマとした取組を行い、全国高校総合文化祭で最優秀賞を受賞した。教育目標である「知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成」は概ね達成できた。来年度も小規模校の利点を生かしつつ、生徒一人ひとりの希望や能力、適性をしっかりと見極めながら生徒全員の力を養う教育活動を展開し、地域の学校として期待に応えていく。
---------	--